志楽小学校だより

舞鶴市立志楽小学校
平成29年度学校だより
第 5 号
平成29年7月20日発行

「継続は力なり！」　努力は人をうらぎらない
自分を高める夏休みに

こぼれ種のひまわりが、元気に夏の訪れを告げています。本格的な夏がやってまいりました。一方で、記録的な豪雨による九州北部の被災状況は他人ごとではなく、心が痛みます。心よりお見舞い申し上げます。

さて、４月には 73 名の１年生を迎え、全校 399 名でスタートして４か月。４月当初から１年生を温かく連れて登校してくれた高学年。朝のあいさつも次第に元気よく、目と目を合わせてできるようになってきました。１年生は朝顔、２年生はミニトマトを育て、学校農園では６年生がジャガイモを収穫し、今もカボチャ、サツマイモ・・・などが育っています。

本日、第１学期の終業式を迎えることができました。朝は、各辻にダイヤモンドパトロール隊の皆様が立って子どもたちの登校を見守ってくださり、下校時にはお母さんやパトロール隊の皆様に迎えていただきました。この１学期間も、保護者・地域の皆様方の温かいご支援とご協力により、子どもたちは元気をいただいて学校生活が過ごせましたこと、誠にありがとうございました。

１つ１つの取組や行事をとおして、子どもたちは、個々の「よさ」や「可能性」など、持てる力を発揮して大きく成長した１学期でした。また、いじめや命の大切さについても考える１学期でした。

いよいよ明日からは夏休みです。４０日間の夏休みは、家庭や地域で過ごし、自立と自律の力をより一層はぐくむチャンスです。ご家庭では、「継続は力なり」を合い言葉に、何か一つのことを続けてやり遂げる喜びを味わわせるとともに、以下の点にも挑戦させてください。

はじめの計画が大切です！

① 時間の使い方を学ばせる…午前中の過ごし方が大切です。学習効率が高い午前中に学習をし、午後は自由研究や読書など、内容は子どもに選択させて活動のメリハリをつけさせてください。

② 「早寝・早起き・朝ごはん、テレビ･ゲームはほどほどに」…生活リズムを崩さず、睡眠時に分泌される成長ホルモンも意識して、睡眠時間を確保させてください。夏休み中にテレビやゲーム依存にならないように、例えばゲームをしない日を設定することも大切です。

③ お手伝いをする子は伸びる…「段取りを考えて工夫し、粘り強く続ける」このことは、将来の「社会生活を営む能力」につながります。家族の一員としての自覚も生まれ、「ありがとう」「助かった」の一言で人の役に立つという自己有用感が得られます。

継続すること・・・玄関の履き物を揃える、洗い物をする、洗濯物を干す、自分が脱いだパジャマを所定の場所に置く・・また、毎朝縄跳びをする、新聞を読む、日記を書く・・どんなことでも毎日続けることが大切です。学年に応じて、今できていないことでちょっとしたチャレンジをさせてください。こんなことと思うようなことでも身に付けば生活が変わります。保護者の皆様には長くて大変な夏休みだと思いますが、子どもたちには貴重な体験のできる大切な機会ですので、毎日の生活の中に目標を持たせてください。

最後に、ご協力をお願いいたします。同じ校区に住んで支援学校に通学している子どもさんが夏休み中に地域の行事に一緒に参加できますよう、格別のご配慮をよろしくお願いいたします。また、夏休みには、体育館屋根と本館西非常階段の塗装工事が行われます。ご理解いただき安全上のご配慮をお願いいたします。

暑さが厳しくなります。なんと言っても命が大切。皆様のご健康とこの夏休みが子どもたちにとって事故のない意義のあるものとなりますよう祈念しております。

校　長　村川　広美
教　職　員　一　同

日々に新たに・・・

命・思いやり

☆ 一学期は、命や思いやりの大切さについて、子どもたちにお話をしました。当たり前の毎日に忘れそうになる命の大切さ。児童会の「ありがとうの木」の取組で、認め合える人間関係も大切に育ててきました。一人一人と実感させることを大切にするとともに、子どもたちには「自分はかけがえのない人」と実感させることを大切にするとともに、困ったときには相談できる大人でありたいと思います。今後も信頼関係を築いていきます。忙しい毎日ですが、子どもと目を合わせて「愛しているよ」が伝わる温かいひと時を、一日のどこかで過ごしたいですね。

そなえる

☆ 原子力災害時に備え、土曜活用の日に引き取り訓練を行いました。趣旨をご理解いただき、多数の保護者様にご参加いただきまして、ありがとうございました。志楽小学校の入り口は国道に面しており、車での出入りは、交通渋滞を招きかねません。やむを得ず車で来校の折は、ぜひ、**左折で出入り**していただきたくお願いいたします。

読書とお手伝いのすすめ

☆ 私が小学生だった夏、母が仕事をしていたこともあり、朝の食器洗いと洗濯干しは、私の仕事でした。今思うと、この手伝いで実践力が養われたと有り難く思っています。また、「玄関の靴をそろえなさい。食事中に肘をつかない。」だけは厳しかった父。子ども時代にしつけられたことは、当たり前のように身に付きます。絵本作家の安野光雅さんの美術館を訪れた時、次のようなメッセージに出会いました。私も子どもの時に、母が本を読む環境にしてくれていたことに感謝しています。（ちなみに私の両親は教育者ではありません。）

継続は力なり。子どもの根っこが太く大きく広がれば、おのずから枝を広げ、葉を茂らせる。根っこを太く育てるのは私たち大人の役目だと思うのです。

わたしは子どもの頃から絵をかくことと本を読むことが好きでした。絵は実物そっくりにかけばいいと思いやすいけれどそればかりではありません。むしろ見えないことをかくことの方がおおいのです。大人になって気がついたのではおそいのです。若いときに絵をかいたり本を読んだりして下さい。

安野　光雅